

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202172		
法人名	医療法人 平成会		
事業所名	グループホームひまわりの家		
所在地	岡山県倉敷市下庄701-10		
自己評価作成日	平成 25 年	7 月	20 日
評価結果市町村受理日			

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=3370202172-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25 年	8 月	2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者一人一人が今出来ている事を継続でき、その中で達成感や充実感を感じて頂けるよう見守りながら援助していく。」と、「入居者一人一人のサインをいち早くキャッチし、スタッフ全員が情報を共有することで、穏やかな生活を送れるよう援助していく。」を具体的な目標に掲げている。
職員達は、自分達がどんなに努力しても、入居者の家族に代わる事は出来ないという介護サービスの限界を認識したうえで「あなたがいて良かった。」と言われるようなグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑の広がる静かな環境、平屋作りで1ユニットの施設である。同じ敷地内にクリニックと老人保健施設、訪問看護ステーション、地域包括支援センター等があり、密な連携ができています。夏祭りは法人全体で屋台や打ち上げ花火等、地域の恒例となり盛大に行っている。玄関を入ると前月の行事等を紹介したカレンダーや利用者が作成したちぎり絵が飾られている。利用者はパズルなど好きな事をしながらホールで過ごしたり、居室でテレビを観たり、それぞれの時間を自然に過ごしている。つい最近新しい管理者に交代したが、前任者から受け継いだ穏やかな雰囲気はそのままである。また、利用者の誕生日当日にみんなでお祝いするなど、家族のような関係づくりも大切にしている。職員は申し送り事項や気づきなど記録に残すことで統一したケアが実践できるよう目標を定め、利用者の思いに寄り添うケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2ヶ月に1度のミーティングと、年に1回ある法人の職員研修の中で、理念の実践に向けて考える時間を設け、話し合う事で、統一したケアが行えるよう取り組んでいる。	「利用者の話を聞く」「業務よりも利用者の訴えを優先する」という事業所理念のもと、手を出しすぎないように、利用者の自立した行動を見守ることを大切にしている。職員全員が参加するミーティングや勉強会で気づきや改善点など話し合っている。理念は各自で確認できるよう、壁に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週2回、近所のスーパーへ買い物に出かけている。また、地域の保育園・幼稚園と定期的に交流しており、年に1回、地域主催の祭りに参加している。	近所のスーパーへの買い物や、地元の保育園、幼稚園との交流を定期的に行っている。毎朝、法人敷地内を散歩し、老人保健施設の利用者や職員と挨拶を交わすのが日課となっている。毎年夏祭りに参加し、家族や地域の方々との交流を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂いている構成員の方や家族の方に、入居者を含めた認知症の実態を知って頂いたり、協力を呼び掛けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、行事の予定や報告を伝える中で、構成員の方の意見や、他の事業所の情報を取り入れ、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、郵便局局長、中学校校長、愛育委員、民生委員、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、家族など多彩な方が参加している。事業所の行事報告、意見交換を行っている。また、テーマを決めて話し合ったり、満足度アンケートの結果報告を行ったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず、地域包括支援センターの職員が参加し、地域の現状や他事業所の取り組み等を紹介して下さると共に、当事業所の取り組みに対する意見やアドバイスをいただき、交流を深めている。	日頃から地域包括支援センターとは密に連携を取っており、地域の情報など教えてもらっている。	倉敷市の担当者へ運営推進会議の議事録を届けるなど事業所の活動や日頃の様子を伝える働きかけをお願いします。運営推進会議参加への呼びかけ等についても検討をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内部研修は、年に1回以上行い、日々のケアでも、身体拘束になるような言動はないか等、ミーティングで話し合った上で、個人でも文章での反省を記している。	年1回法人で身体拘束についての研修を行っている。その他にも勉強会を開き、常に確認するとともに、職員一人ひとりの感想や取り組みなど文章にし記録に残している。玄関、非常口、窓等施錠しておらず、現状では帰宅願望の利用者はいないが、職員が常に目を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する内部研修を毎年行い、その中で自分達の言動が虐待につながる危険性がないか話し合っている。また、個々で文章による振り返りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の内部研修や、運営推進会議で地域の方にも理解してもらう為、情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、事業所の取り組みや、考え方・行事等を説明し、理解を得ている。重度化や看取りについての対応方針は、契約はもちろん、家族交流会や面会時等で理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、日頃よりコミュニケーションをしっかり取ることで、信頼関係を築けるよう努力している。家族や本人に対して、アンケートを行い、集計した意見や要望についてはミーティングで話し合い、反映している。	玄関に意見箱を設置している。年1回、行事参加を兼ねた家族交流会を開き、意見交換を行ったり、満足度アンケートを実施している。利用者からは普段の会話の中から意見や要望を聞くように心がけている。より良いケアにつながるよう職員全員で話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見は、できるだけ早く解決しているが、すぐには解決できない問題は、全員参加のミーティングの課題として意見交換し、迅速な解決に努めている。	年1回、個人面談で話し合うが、日々の業務の中からも意見や提案が出た場合も含め、なるべく早期に結論を出すように努めている。利用者の支援に関する意見や提案が多い。管理者で採択できない事案は法人本部へ託し、解決をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けて、法人を上げて取り組んでいる。取得後は、本人の意向や特性を重視し、活躍出来る場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の報告や内部研修は、月に2・3回行う。内容は、医学講座や介護技術面等、多方面にわたり行うことで、多くの職員が参加できるよう計画を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の集い等に参加したり、ケアマネ交流会に参加し、同業者と交流することで、意見をもらったり、日頃のケアを反省し、サービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では、本人と心地よい距離を保ちながら、入居前提の堅苦しい話ではなく、まずは本人の気持ちを和らげ、職員が受け入れられるような環境・関係を築いていけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望を重視しながらも、事業所としての思いも伝え、双方が歩み寄りながら、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族がグループホームを希望されていても、他のサービスの方がその人にとって有益であると思われる場合には、他施設あるいは、在宅サービスを紹介する等の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の悩みや思いを傾聴する時間を設け、話しやすい雰囲気の中で、共に生きている喜びを感じてもらえる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人に対する思いを大切にしながら、面会時、日頃の生活状態を伝えたり、情報交換をすることで、共に本人を支えていることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お正月の初詣には、地域の神社に参ったり、馴染みの地域をドライブしたりと、自分の育った地域ともつながりをずっと持ってもらえるよう努力している。	買い物の帰りに利用者宅の近所をドライブしたり、隣接する老人保健施設やデイケアに友人を訪ねて行くこともあり、互いの職員が協力し支援している。毎年恒例の初詣は地域に古くからある神社へ出かける。家族と一緒に墓参りや散髪に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を職員全員が共有し、細かい感情の変化も逃がさず、いい距離を保ちながら、注意深く見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同一法人内の老健施設に入所された場合は、折りにふれ訪問し、コミュニケーションを取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の真意が理解できるよう取り組んでいる。	日中の会話はもちろん、入浴時や夜間に利用者から相談や要望が出ることもある。連絡ノートに日々の関わりの中でのエピソードや、どんな些細なことでも記すようにしており、職員全員で利用者の思いや意向を共有するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のこれまでの生活を尊重し、理解した上で得た情報をケアに生かせるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の様子や、身体的状態を把握し、他の職員とも共有するため、申し送りノート等に記録を残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとにモニタリング、6か月ごと又は、状態が変わった時に、ケアプランを作成するが、事前に家族や本人の思いをアンケートに記入してもらう。また、他職員の意見を聞き反映させ、本人にとってよりよい介護計画をつくるよう努力している。	更新時や状態に変化があった時など、本人と家族の意向を反映させたプランを立て、同意を頂いている。主治医や訪問看護の意見も取り入れている。日頃から連絡を密に行うことで家族にも利用者の変化を把握していただき、家族の意見や希望をプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は毎日記入を行い、申し送りノートを活用する事により、その日の出来事や入居者の状態を情報として共有できるよう取り組んでいる。このノートは業務開始前にチェックするようスタッフ間で統一している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の気持ちの変化や、家族の要望に対し、臨機応変に対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に構成員や、地域包括支援センターの職員が参加することで、地域のいろいろな情報交換をすることができ、お互い良い関係を保っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との間にノートをつくり、受診時の情報交換に努めている。家族にもノートを開示し、信頼を得ている。	2週間に1回、協力医院へ受診支援を行っている。その他の本人、家族が希望する病院への受診は基本的に家族にお願いしている。急変時の対応について研修があり、マニュアルも整備されている。夜間帯は医師や訪問看護が対応できるよう連絡網がある。診療ノートを作成しており、家族も見ることができる。必要時には訪問歯科、訪問看護も利用することができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師には、週2回の健康チェックだけでなく、小さな傷やちょっとした状態の変化等、あらゆる問題への相談や指示をもらい、早期対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、主治医や看護師との関係を密にしているので入院となった時、普段の様子を把握している主治医から病院に情報を提供している。グループホームの職員は、見舞い等で家族と情報交換し、退院に向け励ます等の支援を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の本人や家族の意向、または、事業所としての対応を日頃より話す機会を持つようにしている。また、医師・看護師との連携を取りながら、安心して過ごしてもらえるよう努力している。	入居時に本人と家族の意向を確認しているが、身体状況に変化がある度に、話し合いを持つようにしている。同法人に老人保健施設があり、リハビリ目的で転居する利用者もいた。一人ひとりの意向を聞き、医師と訪問看護の協力が得られる範囲で、できる限り事業所で生活できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、勉強会を行うと共に、法人内でも看護師による内部研修で学び体験する機会をつくっている。また、対応マニュアルを作成いつでも閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応は、年に4回消防訓練に一人一人が主となり、訓練している。その都度反省会をすることで、いざという時の自信につながるよう努力している。	老人保健施設と合同で中国電気保安協会職員の指導のもと、夜間を想定した避難訓練を行っている。実際の火災と同じようにベルを鳴らして通報し、避難誘導、安否確認をする。新人職員は必ず消火訓練に参加している。地震災害についても勉強会を行った。訓練後は反省会を開き、感想を記録に残し、次へ繋げている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接する時は、常に人格を尊重し、本人の気持ちを傷つけないよう心掛けているが、またスタッフ同士注意し合い、気付けることで、お互い反省につなげている。	居室訪問時には必ずノックしたり、声かけをして入室している。トイレ誘導時には“さわやかエプロン”を使用し、スムーズな誘導を促している。接遇マナー、認知症ケアについて研修があり、参加した職員は研修内容を事業所に持ち帰り、他の職員へ報告している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めつけるのではなく、その場その場でいくつかの選択肢をつくり、できるだけ自分で決められるように促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や気分を考慮しながら本人のペースで一日過ごしていけるよう、意見を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を準備する段階で、着たい服を決めて頂き、自分らしさが表現できるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食事の好みを把握し、調理の仕方や調味料、切り方を変える等の変化を持たせ、同じ献立でもその人に合った工夫をし、喜んで頂けるよう努力している。	同法人の管理栄養士が主となる献立を作成するが、利用者の好みや畑で収穫した野菜を取り入れるなど職員でアレンジを加えている。3食手作りで提供し、職員も一緒に食べている。利用者にももやしの根切り等下ごしらえを手伝ってもらっている。減塩食、すい臓食など療養食も対応可能である。時々外食に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分の摂取量を記録、又は把握し、体調管理の目安にしている。水分補給を好まない人には、好きな飲み物を出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自分のできる方には声掛け・見守りを行い、そうでない方には介護にて口腔内の清潔保持に努めている。また、昼食前には入居者とスタッフで嚥下体操を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、細めにトイレ誘導を行うことでスムーズな排泄が行えるよう支援している。	チェック表を用い、利用者一人ひとりの排泄の状況を把握し、必要なときだけ誘導を行う。排便のない時は下剤を使用する前に腹部マッサージを行い排便を促すよう心がけている。足元が不安定な利用者は居室にポータブルトイレを置き、夜間のみ使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の1日の水分量・摂取量を把握し、下剤の調節や腹部マッサージ等、個々の排便リズムに合わせて実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴は日曜日以外毎日行い、個々に入浴の順番の希望を聞いている。	利用者の体調に合わせて対応しているが、基本的に日曜日以外、毎日入浴を実施している。自宅での生活と同じように毎日の入浴を当たり前という考えのもと継続されており、利用者は清潔が保たれ、入眠もしやすい。3時のおやつの後、希望する順番に入れるよう支援している。	毎日の入浴が「当たり前」となっていることから、職員みんなの思いやケアが利用者に寄り添っていることを強く感じることができました。これからも続けていきたいと思いました。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠サイクルを把握し、体力面を考慮しながら個々に臥床する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容はファイルに整理し、いつでも閲覧できるようにしている。薬ごとに名前が記入されているので確認しながら介助したり、配ることで誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に好きな事や興味の持てるものを楽しんでもらい、気分転換になるよう支援すると共に洗濯物の干す・たたむといった事や食材の下処理等、生活の中でその人ができる事を役割として行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝、何グループかに分けて、施設の駐車場内を散歩している。また、定期的にドライブを計画し、外出することで季節を感じてもらえるよう努めている。	毎朝、全員で敷地内の駐車場を散歩し、畑の水やりや収穫を行っている。また、毎日の入浴で洗濯物が多く出るため、職員と一緒に戸外に洗濯物を干し、取りこみ、たたむなど利用者が率先して手伝っている。ドライブで季節の移り変わりを感じたり、レストランで食事をしたりするのも楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々によってお金の所持は異なるが、所持している方については、特に預かる事はせず、ご本人を尊重し本人の金銭管理を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	身内に手紙を出す人、電話をかけたいと希望する人には、個々の気持ちを大切に、実現に向け支援してる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本棚は利用者が利用しやすい所に置いたり、テレビは興味のある人、ない人を考慮し置き場所を工夫している。	全体的にゆったりとした、落ち着ける雰囲気である。窓も大きく、畑や法人の施設、田んぼも見える。掘りごたつのある和室にテレビがあり、利用者の観たい番組をつけるが、食事前には消すことで、食事に集中できるように配慮している。壁にはちぎり絵や習字を飾っている。オープンキッチンなので音、匂いなど生活感がある。家族から頂いた生花も飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置き、個人が利用しやすい雰囲気になるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前面接でお願いしているので、普段使い慣れている家具や好きな物、写真等を身近に置く事で落ち着けるよう配慮している。	居室には顔写真、誕生日や干支を書いた手作りの表札をかけている。クローゼット、電動ベッド、洗面台、エアコンなど備え付けである。自宅から持参した写真やカレンダーを飾るなどそれぞれの個性を感じる居室になっている。茶碗やコップ、はし等も使い慣れた物を持参してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には、個人の写真やプロフィールを書いて貼ることで、自分の部屋であることがわかるよう配慮している。		